

『十人十色』 作：ポチ子

『十人十色』 作：ポチ子

人にはそれぞれ色がある。

聞こえはいいけれど、

似通った色だっただい。

赤色の隣には朱色がいて、

青色の周りには藍色がいる。

違うよりも、同じである事の方が大切なんだ。

そうとさえ思う。

もちろん中には、

濁ったような色や、

中途半端な色もあって。

それを綺麗だなんて、とても言えない。

周りが黒色ばかりなら、

そんな色だって、綺麗に塗りつぶせるけど、

白色の中にいたならば、

白は汚れてしまう。

それはとても迷惑なような気がする。

でも、口には出さない。

皆、嫌な顔をするだけだ。

早くいなくなってしまうえ。

『十人十色』 作：ポチ子

お前の色なんかいらぬ。

こちらを見る目線に、

私は怯えている。

— 終わり —